

ビジネスをサイエンスする

2018

創立102年目の挑戦!



長野県赤穂高等学校 商業科通信

vol.144

経済社会で役立つスキルを身につける

地域社会の問題を考え貢献する

困難な課題を突破する力を育てる

長野県商業教育研究会「マーケティング塾」主催バレンタイン合同販売会 2月9日(土)10日(日) アイシティ21(山形村)

『バレンタインスイーツ』で活躍しました!

商業実践部ビジネス班
参加校のなかで最も早く完売



赤穂高校開発商品!

ケーキ大福
和菓子である大福と洋菓子であるケーキ、この2つを人間的な発想で1つのお菓子に。まさに新発想・新感覚スイーツです。

希望小売価格 1個 570円
協力:信州産の菓工房

チョコス大福ver
3種のチョコ大福をちよこつとずつ詰めました。

希望小売価格 1袋 500円
協力:信州産の菓工房

チョコス マンゴー-ver/イチゴver/ホワイトver
濃厚なとんりソース、生チョコ、マンゴーorイチゴチョコ大福のホワイトチョコ大福をちよこつとずつ詰めました。

希望小売価格 1袋 600円
協力:信州産の菓工房

栗ナン
伊那栗とかりんとうを混ぜ合わせた和菓子風のクランチです。

希望小売価格 1袋 500円
協力:信州産の菓工房

赤穂高等学校



朝日新聞 2/4掲載

中日新聞 2/10掲載

高校生と大学生が開発
バレンタインスイーツ
地域と連携、9・10日 山形で販売



企画したスイーツ商品披露する穂高の生徒ら＝山形村

高校生と大学生が地域と連携して企画開発したバレンタイン商品が完成し、2日にお披露目された。9、10日の2日間、アイシティ21(山形村)で販売される。

取り組みは今年で6回目。参加したのは諏訪県と赤穂、穂高、長野商、南安曇豊の高校5校と、松本大、同大松商短期大学部。高校生らは松本大でマ

企画したスイーツ商品披露する穂高の生徒ら＝山形村

ケティングを学んだり、井上百貨店(松本市)で合同販売会を経験したりしてきた。生徒らはチョコレートなどを使ったスイーツを考案。地元菓子店などと交渉し、一緒に試作するなどして完成させた。今年は33種類が用意され、価格も250円から3千円と幅広い設定となった。この取り組みから、店の定番商品も生まれているという。

初参加の赤穂は和菓子系を完成させた。今井晴日さん(2年)は「イメージした通りの商品が完成し、おもしろいです。手にとってもらい「完売したい」と話した。松商短期大学の筒井香帆さん(1年)は「百貨店なので年齢層の高い方にも

松本大の白土洋教授は「レベルが上がっている。地産地消を考えたり、原料にこだわったりしている。いいものが出来ている」と評価している。販売日は両日とも午前10時から。(佐藤晴)

商品を客層に案内する高校生たち＝山形村のアイシティ21で



斬新なスイーツ楽しんで

きょうまで山形で販売 学生らが開発

県内の高校生、大学生が地元企業と連携開発したスイーツを販売する催し「高校生・大学生バレンタインスイーツバレンタインまで待てない」が9日、山形村のアイシティ21で始まった。十日まで。

六回目の今年は七校が参加。各校の生徒と学生が店頭立ち、三十三種類のスイーツを販売している。

初参加の赤穂高校(駒ヶ根市)は、ケーキを大福で包んだ「ケーキ大福」、飯島町などで栽培されている高品質のクリ「信州伊那栗」とかりんとうを混ぜ合わせたクランチなど六種類を販売。二年の今井晴日さん(18)は「伊那栗を多くの人に知ってほしい。大福とケーキの斬新な組み合わせも楽しんで」と話した。

十日は午前十時から午後四時。(中津芳子)